

Respite Stellam, Voca Mariam !



小鳩会通信

～私たちのしていることは大海の一滴にすぎないと感じています。

けれど、もしその一滴がなければ、海はその一滴分、確かに少ないということです。～マザー・テレサ

「共感～ひとに寄り添えるところ～」

校長 野中 豊彦

明星の「小鳩会」の起源は古く 100 年以上の歴史を有しています。当時ハンセン病療養の先駆けであった私立「神山復生（こうやまふくせい）病院」に対する義援金活動がその始まりです。

神山復生病院は明星の設立母体のカトリック修道会「マリア会」と同郷のフランス人ジェルマン・レジェ・テストウィド神父が 1886 年（明治 19 年）、宣教の中、一人のハンセン病患者と出会い、社会で放置された同病者の救済を思い立ち、静岡県御殿場の鮎沢村（現在の御殿場市新橋[にいはし]）に家屋を借用して 6 名の患者を収容したことから始まりました。その後、病院は神山に場所を移し、現在でも運営を続けています。当時は、医師も看護師もおらず、異国のカトリック神父が患者たちを介護していました。その神父からの要請で明星の修道士、教員、生徒、保護者が物品の提供をし、苦悩する人々のために学園を挙げての協力が始まりました。

その精神は 100 年以上経過した今なお受け継がれています。明星の建学の精神はこうした小鳩会活動を通して具体化されていきます。生徒、教職員一人ひとりが会員であり、約 1500 名の思いを一つにしていけば大きな力になります。

私たちの周りにはたくさんの援助の手を求めている人々がいます。困っている人、助けを求めている人に少しでも役立つことが出来ればこの活動には意味があります。ジュース 1 本分、アイスクリーム 1 つ分の我慢が多くの人々の笑顔につながります。先生は、君たちに、行動指針として「自律、共感、挑戦」を掲げます。生徒の皆さんには、共感一ひとに寄り添える心一を育ててほしいと強く思います。小鳩会をはじめとする明星でのさまざまな活動を通して、他者を尊重し、寛く受け入れる心、異文化を尊重する姿勢を育み、さらには社会に奉仕する精神と世界をより良い方向へ導くことへの強い使命感を持つという高みまで目指してほしいと思います。皆さんのすぐそばに困っている人、支援を待っている人がいます。「どうされましたか、何かお手伝いできることはありませんか」の一言をさりげなく言える人になりましょう。

「人は本当に苦しい時に苦しいとは言えない、本当につらい時につらいとは口に出せない、泣いている人ばかりに気を配るのではなく、泣けない人こそ愛しなさい。」

マザー・テレサ

小鳩会の会員は明星の全員です。小鳩会活動は、お金を集めることだけが目的ではなくて、お小遣いでのおやつをひかえて他の人に差し上げる気持ちで献金する、自分の時間をボランティアのために使う、電車の席を譲る…など、自分を差し出して、支えあい、お互いの気持ちが豊かになることに活動の意義があります。是非とも皆さんの日常を小鳩会活動にしていってください。各クラスから、小鳩会委員が選出されました。クラスの皆と協力しながら活動に取り組んでください。

◆今回の献金期間と献金先◆ 5月7日(火)～5月12日(金)

- ルワンダの教育を考える会(ウムチョムイーザ学園の学校支援)
- 若王寺こども食堂(こどもへの食事提供支援)
- カリタスジャパン(能登地震被災者支援)
- 東日本大震災ともしび会(東日本大震災遺児の学生支援)

小鳩会委員は、担任の先生と相談して、献金期間のうち都合のよい機会を活用してクラス献金をお願いします。

カリタスジャパン <https://www.caritas.jp/> とは、日本カトリック司教協議会の社会司教委員会を構成する一委員会です。社会福祉活動の推進と国内外の災害援助、開発援助を行っています。(中略)国際カリタスは1951年教皇ピオ十二世に認可された社会活動、救援活動団体で、国連経済社会理事会第一級認定の国際赤十字に次ぐ国際NGO組織。加盟国162カ国。本部はバチカン。

◆戦後、政府の求めに応じて、カトリック教会も援助物資配布窓口として、各地域からの援助物資を戦後復興期の日本国内に配布しました。それが、カリタスジャパンの芽でした。◆カリタス(Caritas)とは、〈無償の愛〉・〈神の愛〉・〈いつくしみ〉という意味のラテン語です。

若王寺こども食堂ボランティア活動報告



● 今回、こども食堂に参加するのは2回目だったのですが、やはり子供達と触れ合うのは楽しいです。僕は「スーパーボールすくい」を担当していたのですが、純粋に楽しんでくれる子供達の笑顔を見ると僕も元気をもらえました。人と触れ合うことがあまりないので、たくさんの方が来てくれるこども食堂はとても良い機会でした。また機会があれば参加したいです。

● こども食堂は今回で3回目の参加だったのですが、初回時に比べると子どもたちとの触れ合いにも慣れてきました。今回はトランプ遊びと簡単なマジックを披露しました。トランプはみんなでババ抜きや神経衰弱などをしました。神経衰弱は「子どもたちが高校生たちに勝てるのかなあ」と思いましたが、思った以上に強くてびっくりしました。

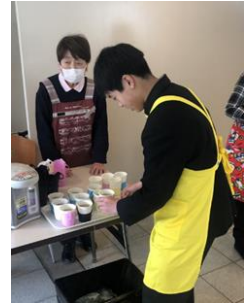
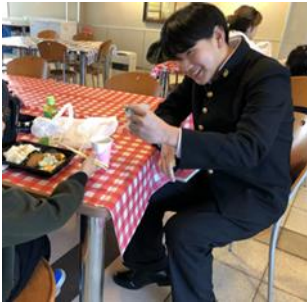
簡単なマジックの披露では、子どもたちにすごいと言われてとても嬉しく、自信ができました。次回には、もっとたくさんのマジックを子供たちに披露できるように練習したいです。次回も参加して子どもたちの喜ぶ顔が見たいです。

● 今回、僕は、お弁当を配る係、そして、ひとりで来ている子どもたちに声をかけて、一緒に遊んだりしました。コロナ後からずっと参加していますが、今回は、特に子どもたちと近い距離でこども食堂ボランティアを楽しめました。子どもたちとベイブレードの話で盛り上がったことはいい思い出です。また、印象に残ったことは、2人の姉妹と話した時に、お父さんがいないことや、お母さんの代わりに自分たちで自炊してご飯を食べているという話を聞いたときに、こども食堂の子どもたちに食事と楽しみを提供するという目的を再認識させられたことです。こども食堂では、毎回新しいことに気付かされます。今回もとても有意義な時間でした。



● マジック同好会として参加しました。僕は、今回、2回目だったので、あまり緊張はしませんでした。前回の12月23日のクリスマスの時と違い、それぞれのテーブル席へ行ってマジックをするのではなく、固定した場所においてマジックをするので、誰かが来てくれるのを待たないといけませんでした。最初は、あまり人が来なかったけれど、途中からたくさんの方が来てくれました。失敗をせず、見に来た人が驚いてくれたので、うれしかったです。

● 今回、子ども食堂のボランティアに参加した理由は、友達から一緒に参加しようと誘われたからでした。子ども食堂当日にエプロンを忘れてしまい、子どもたちと一緒に遊ぶ係になりました。僕のできる遊びは坊主めくりだったので、坊主めくりをメインに担当しました。坊主めくりは意外と子どもたちから人気があったので驚きました。



明星では、東日本大震災の後から今日まで

【東日本大震災ともしび会（桜の聖母里親制度）】に10年以上にわたり小鳩会献金を続けてきました。同会は、学校法人コングレガシオン・ド・ノートルダム、桜の聖母学院と宗教法人コングレガシオン・ド・ノートルダム（カトリック修道会）が運営しています。震災により保護者を失ったり、生活基盤を失った子どもたちの健やかな育成を目指して立ち上げられた里親制度です。一定の社会的役割を果たし、今年度でその役割を終えるそうです。

ともしび会の皆様、ごきげんよう。

この度は温かいご支援を頂き、心から感謝申し上げます。

今から十三年前、東日本大震災の被害に遭った当時、私は六歳でした。

地震が起きたその日、私は地元の幼稚園におり、年少・年中クラスは遊戯室で午睡をし、年長クラスの私は廊下とつながっているホールで同じ年の子と遊戯室で寝ている年下の子を起こさないように静かにテレビでアニメを観ていました。

静かにしていたからか、あの瞬間振動で物がカタカタと動く音や、建物自体が小さく揺れていることにクラス担当の先生もテレビを観ていた私達もすぐに気が付きました。全員が建物の揺れに気が付いたと同時に、その揺れは一気に大きくなっていききました。「みんな、急いで机の下に隠れて！」という先生の言葉を合

図に、私達はホールから近い廊下に置いてあったテーブルの下に急いで隠れました。テーブルの下に三、四人ずつ入り、小さく蹲りながら固まって、何が起きているのか分からない恐怖で涙も声も出せないまま震えていました。

私はその時、テーブルの下で非常口の緑色の看板が揺れているのを見て「電車みたいだな」と呑気なことを思っていたのですが、今思い返すとその時の私はまだ地震とは何なのか、地震の恐ろしさというものを全く知らなかったのだと思います。

ただ、生まれて初めて起きている異常な事態や友達の恐怖に泣き喚く声。そして、その時に自分の近くに保護者が居ないことに、私も不安や恐怖でいっぱいになりました。

あの時、実際に先生がどのような指示や行動をしていたのかは子どもの頃の記憶なので曖昧になっているのですが、幼稚園の近くにある小学校の広い校庭の真ん中に私達を列に並んで座るよう誘導して、周りが見えて更に不安を与えないように上から大きめの毛布を被せて視界を遮るようにしていたこと、毛布越しに隣に座って落ち着かせてくれていたあの優しさは今でも鮮明に覚えています。

友達の保護者が次々と迎えに来る中、私の家はその小学校の目の前にあったので、すぐに私の父も迎えに来てくれました。その時はとても安心感で溢れていました。ですが、家に帰ると私が住んでいた家は大きく傾いており、リビングにあるテーブルや棚などは全て右側の壁の方へ、木材の床は天井が剥がれ落ちたのか白い粉まみれになっていて、つい昨日まで生活していた安心できるあの場所ではなくなっていました。その光景を見た瞬

間、これが「災害」という異常事態であることを知ると同時に、幼いながらも、完全に絶望を感じました。

あの日目にした光景は、忘れたくても忘れることができません。その日から、町の体育館で地域の人と集まって避難生活を続けていました。

度々起こる余震に夜も怯えながらも、支給された金平糖が入った乾パンや毛布などで疲れた身体を少しでも保とうと思いつきながら、体育館での仕切りの無い生活に耐えていました。三月だったこともあり晴れている日も多くありましたが、たまに雪がちらちらと降っていたことも覚えていています。

家が全壊だったこともあり、小学校に通っていた時期の殆どは町が設置した仮設住宅で家族と共に過ごしていました。学校に行く時は、住んでいた家の前まで祖父に車で送ってもらって、そこから登校班で歩きながら学校に向かいました。毎日安全に送り迎えをしてくれた家族にはとても感謝しています。

桜の聖母短期大学の保育コースに通い、将来保育者になるに向けて勉強をしている今、当時幼稚園児だったあの頃を思い出すと同時に、もし私がクラスを担当していた時に地震や災害などが起きた場合、子どもたちにどのような声掛けや援助をすればいいかを節々に考えるようになりました。当時、実際に目で見て感じた担当の先生方の行動や援助などを思い出し、先生方の決断と子どもに対する優しさや安心感を参考にしながら、自分ならどのように行動し援助するかを、災害時のみならず通常通りの生活の中でも頭の中に入れておき対策できるようにしておくことが大切だと感じています。また、保育者である時の場面だけでなく、

く、震災で避難生活を送り、のびのびと遊べる場所が少なくなってしまう不安を抱えている子どもたちの為にその場ですることのできる楽しい遊びや、子どもやその保護者が安心して過ごすことのできる環境を作るなど、保育を学んで得た知識や経験などを活かして、その時に実際に自分がどのような行動ができるかを考えておこうと思うきっかけにも繋がりました。

今こうして桜の聖母短期大学に通い保育を学べているのは、支えてくれている家族、そして、ともしび会の皆様の温かいご支援があるからだということに身染みて感じております。この度は誠にありがとうございました。

皆様から頂いたこの御恩を忘れず、残りの一年も安心して保育を学ぶことのできる有意義な時間を過ごしていきたいと存じます。

（生活科学科福祉こども専攻
こども保育コース 一年）

先方様に、転載の許可について、ご快諾を賜り『ともしび会』のニュース・レターの一部を小鳩会の皆さんに紹介します。同時に先方の事務局のシスターより、長年にわたる小鳩会の支援につきまして、御礼の言葉もいただきました。

生徒の皆さんへ

下記のような活動も再開しています。小鳩会の精神を忘れずに、今後ご協力ください。



保護者会募金

各学期に一回ずつを目安に、必要に応じて、保護者会の際に学園聖堂前で校内募金活動をしています。東日本大震災の復興支援のための募金も続けながら、様々な災害の支援に向けた募金活動も行っています。いつも募金に応じてくださり、小鳩会委員一同、感謝申し上げます。暑い日も寒い日もありますが、中学1年生から高校Ⅲ年生まで、力を合わせています。



こども食堂ボランティア

聖ヨゼフ宣教修道女会のシスターが中心となって2017年より始まった若王寺こども食堂。夏休みとクリスマス会のお手伝いに行っていましたが、今はコロナにより、こども食堂もなかなか活動できないなか、お弁当の配布などできる限りのことをなさっています。このお弁当には、小鳩会献金も活用されています。

各自で活動の記録※を保管してください。※小鳩会通信や個別のボランティア実施要項、報告等

近年、進学や就職に際して、これまでのボランティア活動など諸活動の報告を求められることが増えたようです。受験生からは、各自が関わった活動の記録として、小鳩会通信のバックナンバーや活動の詳細について問い合わせもあります。宗教部での記録を照会して、お応えするようにはしていますが、各自でも必要と思われる記録は保管してください。就職活動に際して提出書類に記載が必要だということで、卒業生より、過去に参加したボランティア活動についての問い合わせがあった例もあります。